2023年度

提出時には青字のコメント・例示・ガイドラインは削除してください。

関西大学GAPプログラム＜KUGAP＞

応募申請書

申請日　　年　　月　　日

**１．申請代表者**

|  |  |
| --- | --- |
| フリガナ |  |
| 氏　名 |  |
| 所属学部／研究科 |  |
| 学科／研究室 |  | 職名/学年 |  |
| 連絡先 | 電　話 |  |
| E-mail |  |
| ※代表者が大学院生の場合 |
| 指導教員の氏名 |  |
| 指導教員の所属・職名 |  |
| 連絡先 | 電　話 |  |
| E-mail |  |

※申請代表者が大学院生の場合は、指導教員の承認を得たうえで申込むこと。審査の結果、採択された場合は指導教員から別紙「確認書」を提出いただきます。実施開始年度が大学院の修了年度になる大学院生の場合、修了後課題を継続できる大学院生を研究開発の体制（下記１１.）に加えること。内容を事前に指導教員と確認のこと。

**２. 事業化プロデューサー（設置する場合のみ記載）**

|  |  |
| --- | --- |
| フリガナ |  |
| 氏　名 |  |
| 所属 |  |
| 役職 |  |
| 連絡先 | 電　話 |  |
| E-mail |  |

**３．申請テーマの名称と概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 |  |
| 概要 | 300字程度でまとめてください。 |

＜**研究シーズについて＞**

**４．ビジネスの核となるこれまでの研究成果**

　ビジネスの核となる研究成果（技術シーズやアイデア）の内容や特徴について、背景から成果までを図表やデータを用いて、また、見出しも適宜設定して紹介してください。特に、その技術シーズやアイデアの独創性や魅力が伝わるように説明してください。

**＜事業について＞**

**５．ビジネスコンセプト**

　研究成果が社会ニーズにいかにマッチするものか、個人または社会の課題解決にどのように貢献するのか、そのために誰に何をどのように提供していこうとするのかを簡潔に記述してください。

（１）社会背景および市場ニーズ

（２）解決しようとする課題

（３）提供する商品・サービス及びターゲット（想定顧客）

**６．ビジネスモデル（事業化のイメージ）**

　ビジネスコンセプトを実現するために、どのようなベンチャー創出（起業）を目指すのか、目指す姿と収益構造の目論見（見込み顧客例、商品・サービスの形態、価格、数量…等）を詳細に記載してください。また、現在～将来の市場規模の見込みも記載してください。

（１）ビジネスモデルの姿と収益構造の目論見

（２）市場規模の見込み

**７．ビジネス分野での競合優位性**

　競合技術や商品に対する独創性・新規性、代替の困難性など優位性を述べてください。

**８．知的財産戦略**

（１）現在保有している、または、出願中の知的財産権

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項番 | 発明の名称 | 出願番号特許番号 | 発明者（全員記載のこと） | 出願人（全員記載のこと） |
| １ |  |  |  |  |
| ２ |  | ・特許がない場合には、「なし」と記載ください。・特許を保有していない場合は、（3）.にて、今後の知的財産戦略を必ず記載してください。 |  |  |
| ３ |  |  |  |  |

（２）協業の状況ならびに計画

　技術シーズやアイデアについて、既に企業と共同研究を行っている場合やライセンス契約がある場合は、その状況について記載してください。あるいは、その計画がある場合は計画について記載してください。

（３）今後の知的財産戦略

**＜KUGAPでの取組みについて＞**

**９．起業に向け、本プログラムで解決すべき課題**

　課題ごとに項目を分けて、課題の内容と取組みを説明してください。

（１）研究に関する課題

①課題１の見出し

　課題１の内容と取組み

②課題２の見出し

　課題２の内容と取組み

（２）マーケティングに関する課題

③課題３の見出し（連番にしてください）

　課題３の内容と取組み

④課題４の見出し

　課題４の内容と取組み

**１０．各課題のプログラム終了時点での成果目標と実施スケジュール**

実施期間：2023年　　月　　日　～　　　　年　　　月　　日（最大１年間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 課題項目 | 目標 | 着手時期 | 達成見込み時期 |
| 課題１　　 | 目標１　　 | 20XX年XX月 | 20XX年XX月 |
| ・必要に応じて行を増やしてください |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

**１１．実施体制**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 氏　名 | 所　属 | 役割・分担 |
| 実施代表者 |  |  |  |
| 実施分担者 | 本学教員は、所属学部、役職本学学生は、所属学部（または研究科）、学科（または専攻）、学籍番号学外機関の参画者は、所属機関、部署、役職他大学学生は、所属大学、学部・研究科、学科（または専攻）を記載してください。 |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

**１２．必要経費**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 予算経費 | 提案予算額（千円） | 使途 |
| a.物品費 | 800 | 想定顧客ヒアリングのための試作品部材 |
| 240 | 開発用部材（試薬、試料）・想定顧客提示向けの実験データ取得のため |
|  |  |
| b.旅費 | 50 | 京都⇔東京、1回、2名、想定顧客打ち合わせ |
| 10 | 京都⇔名古屋、1回、1名、想定顧客打ち合わせ |
|  |  |
|  |  |
| c.人件費・謝金 |  |  |
|  |  |
| d.その他 | 600  | （外注費）　XXの競合技術調査 |
| 600 | （外注費）　XXのデータ分析 |
| 200  | 想定顧客評価用試作品、輸送費 |
| 500 | 想定顧客評価用試作品、加工費 |
|  |  |
|  |  |
| 合計 | 　3,000 | 　 |

（注意）

※「使途」欄は調達する物品・役務等の名称だけでなく、その調達が顧客ヒアリング、ビジネスモデルブラッシュアップ等の事業化に向けて必要な理由が分かるよう記載すること。

※事業化を目的としない基礎研究のための経費には使用しないこと。

※再委託は不可。外注費としては、研究開発要素を含まず、役務仕様が予め決まっており、作業のみを外注する請負契約のみが対象。

※経費の執行にあたっては、『研究費の支出に関する取扱内規』及び『研究費支出手続きハンドブック』に従うこと。

**１３．希望助成額　　　　　　　　　　　　　　　　　　　円**

**１４．抱負**

　大学発ベンチャー創出にかける決意等あれば記載してください。また、研究成果の社会実装の方法として、企業との共同研究やライセンスではなくベンチャーを選択した理由を必要であれば説明してください。

以上